

伝統音楽を独自に昇華させた、スウェーデンのコーラス・グループ、クラヤ。

ポップスやロックに限らず伝統音楽の世界においても、女性コーラス・グループは独特の魅力を持っている。世界的人気を誇るブルガリアの合唱団やアイルランドのケルティック・ウーマンを筆頭に、日本にも沖縄のネ

ーネーズやアイヌのマレウレウなどがある。そして昨今、ヨーロッパで人気を集めているのがスウェーデンのクラヤだ。昨年6月と12月の2回来日公演を行い、年末にはNHKのTV番組「世界で一番美しい瞬間」が彼女

たちだけで丸々1本プログラムを組むなど、日本でもファンが急増している。

クラヤは、スウェーデン北部の町・ウメオで生まれ育った4人の女性から成るグループだ。彼女たちは10歳前後の頃に地元の音楽学校で知り合い、2002年に結成。最新作「離れていても」まで計4枚のアルバムを発表している。時々ゲストによる楽器演奏も加わることがあるが、基本的には無伴奏のアカペラ・コーラスで、北欧の伝統音楽及びそれを元にしたオリジナル曲を歌ってきた。スウェーデンの伝統音楽は通常ユニゾンで歌われてきたが、彼女たちは4人の個性を生かしつつ、独自のハーモニーを展開する。

「こういうスタイルが過去になかったわけじゃないけど、私たちは不協和音を多用するなど、より複雑で新しいハーモニーの作り方に工夫を凝らしてきた」

透明感のある声でヴィブラートをかけずに歌うスタイルは北欧に共通したものだが、クラヤの場合はそこに土や草の濃厚な香りと、民話的温かさ、そして限りない愛らしさが加わり、聴き手を一瞬にして北欧の森へと誘ってくれる。そして、平凡な日々の暮らしに密着した普遍的な歌だからこそ伝わってくるリアルな抱擁感。まるで、天空から降りそそぐ光のようなハーモニーである。

昨年12月の来日公演の様様。神秘的なハーモニーを聞かせてくれた。左から、リサ・レスタンデル、フリーダ・ヨハンソン、リンネア・ニルソン、エヴァ・レスタンデル。

クラヤ
「離れていても」
ライスレコード
INR-8000
3024円

和家具の世界のトビラを開ける、ワクワクの1冊!



東京・下北沢で70年続く「アンティーク山本商店」は、時代和家具の専門店。明治から昭和の大量生産時代に入る前の和家具を、時にメンテナンスを施した上で販売している。職人の手によって心を込めてつくられた家具や、伝統工芸品の価値が再び見直されているいま、「和家具をもっと身近に楽しんでほしい」という思いからこの1冊が刊行された。

和家具といえば、ちゃぶ台、椅子、小抽斗（こひきだし）、簿記机など。現在では珍しい筆筒の形やガラスの形状、木のぬくもりを感じる和家具の写真たちにはうっとり。各家具の仕組みや種類、地域差などの解説はミニ図鑑のようにもなっている。現代的な家具とあわせて実際に採り入れて

いる部屋を訪ね、扉付の本棚は食器棚に、瀬戸火鉢は氷を入れてワインクーラーにしたりなど、愛用者のアイデアあふれる使い方も紹介した。

読んだ後は、「和家具をいつかほしい」と思ってしまう。ていねいなモノを愛する人ならば共感できる、和家具ワールドの入門本です。



『和家具をたのしむ
～東京下北沢で七十年 山本商店が伝える家具の新しい魅力～』
著:山本明弘 洋泉社刊 1700円

『赤道倶楽部』は、この冬もイベント開催!



東京・銀座一丁目のバー『赤道倶楽部』では、この冬もイベントを開催!

2月23日(火)は、電通ソーシャルデザイン・エンジンの並河進さんがマスターとなる「KAKEKOMI BAR」。「社会をよくすることをしたいけど、どうしたらいいの?」と悩むソーシャルピープルが、誰でも「駆け込める」バーとなる。予約不要、立ち見OKなので、ふらりとどうぞ。

3月4日(金)は、小誌の小西威史

副編集長による「Social & アフリカナイト」。かつてケニアで暮らし、アフリカでの取材経験も豊富な小西副編集長が、ソトコらしい視点でアフリカを紹介する。「ムンロ王子のタロット占いの夜」も、3月1日(火)に再登場。17時半から19時15分(ラストオーダー)までは、ドリンク1杯600円でお楽しみいただけるハッピーアワーも継続し、外は寒いけど、中は熱い『赤道倶楽部』なのだ!

KAKEKOMI BAR
2月23日(火) 19:30～23:30
(L.O.)
料金:2000円(1ドリンク付き)
*定員なし、申し込み不要

小西副編集長のSocial & アフリカナイト
日時:3月4日(金) 19:30～21:30
料金:2000円(1ドリンク付き)
*要予約

『赤道倶楽部』 www.sekidoclub.com
*詳細、お申し込みは、ソトコHP(www.sotokoto.net)まで。